

3名の議員から質問！

一般質問

ズバリ、町政を問う！

9人の議員が一般質問を行い、町の施策等について町長に対し論戦を挑んだ。

### Q 政府が行う「事業仕分け」について

A 現時点では本町への影響は把握できない  
導入に関しても慎重に検討したい（三村町長）

A 国の事業仕分けの結果が報告され、来年度予算へ反映させる方針が決定されたが、予算が確定するまでは、本町への具体的な影響は把握できない。今後も国や他自治体の動向などを注視しながら、引き続き行財政改革に取り組み、健全財政を維持していく。  
また、この事業仕分けについては、予算編成のプロセスや国の事業が明らかになったことなど、初の試みとして評価される一方、対象となった事業の選定基準等が不透明であることや、短時間の議論で判定できるものではないなど、賛否両論がある。このため導入に関しては、本町にとって有効に機能する手法であるか、慎重に検討していきたい。

伊藤議員



### Q 国の補助事業への対応は？

Q 国の「事業仕分け」に伴い、県も事業仕分けを導入した。本町は導入するのか。それにより、廃止・縮小される事業はあるか。またその中でも、特に下水道事業や農道事業について、今後どのように対応するのか。

渡議員



### Q 行財政改革として導入するか？

Q 行財政改革の取り組みとして「事業仕分け」は、関心の高いキーワードになっている。本町においても厳しい財政状況の中、「事業仕分け」を導入する考えはあるか。もしないとすれば、これからの難局をどう乗り切るか。

山野議員



### Q 本町への影響はどうか？

Q 民主党政権になって3カ月が経過した。現在政府の行っている来年度予算編成への財源確保のための「事業仕分け」による本町への影響はどのような状況になるのか。

福垣内議員



### Q 地場産業について



A 関係団体と連携を図りながら取り組んでいく（平町総務部長）

A 6月議会後、熊野筆組合に対して、ブランド管理を厳格かつ適正に行うよう要請した。これを受け、筆組合では説明会を実施し、「熊野筆」定義の適正な運用を周知徹底された、と報告を受けている。  
また、筆産業の拠点性の向上は、筆産業の振興はもとより、地域の活性化にも資するため、関係団体と連携を図りながら、更なる支援策について研究していきたい。

Q 熊野筆ブランド管理のその後の状況は。  
A また、熊野筆と他産品の区別化を明確にし、全国的に「筆産業は熊野」としてハブ化できないか。

渡議員



### Q 業務システムの構築を町職員の手で

A 新たなシステム構築の際にはより効率的な業務ができるよう努めたい（三村総務課長）

A 本町では汎用業務システムを導入しており、ITコーディネーターと共にこの見直しを進めている。  
独自開発では、法律改正等の度にシステム改修の作業が必要のため、小規模な自治体では、汎用業務システムを利用する方が、効率的であると考えている。  
今後、新たなシステムを構築する際には、浦添市の例も研究しながら、より効率的な業務ができるよう努めたい。

Q 沖縄県浦添市では、業務システムを市職員とメーカーの社員が相談しながら構築した。効率的な上にコストが安いため、町でも研究したらどうか。